巡査に斬られた帽子を持ち出し

昨夜青年會館で 賀川氏の熱辯

「神戸の勞働爭議巡査拔劍問題の演説會」……廿日午後五時頃から續々神田青年會館目掛けて詰掛けて押し寄せた市民はさながら潮のやう錦町署は全員を擧げて警戒したが五時半早くも二箇所の鐵門を閉鎖したが

聽衆は 後から後から詰掛けて一時は電車も止むると云ふ勢ひさしも警官に固められた鐵門も二回迄聽衆に突破されたかゝる騷ぎの中に場内では松谷、中村、谷、山中、宮崎、布施諸辯護士の調査報告に、神戸から出京した生證人柴田、久留、高山、行政諸氏が一々血の出るやうな熱辯、拔劍で斬られた麥藁帽、職工を打ちのめした丸太等が

演壇に 運ばれたが流石の署長も是等の風評數を解く事を肯じなかつた「勞働の神」「正義の闘士」などゝ言ふ讃美の裡に登壇した賀川豐彦氏は熱狂した聽衆を前に警官隊の暴狀を述べる「併し私は、薄給な、我々同樣の無産階級の巡査を憎む氣にはなれない若し彼等と

衝突し たら三万五千の職工を有する我々は勝つたかも知れない、我々は最初から無抵抗主義であつた、我々は偉大なる愛と正義と人道の上に立脚してゐる」敬虔な宗教家のやうな句調から怒濤のやうな咆哮となつて長く續く其都度急霰の如き拍手の間に場の一隅から社會主義の一團が「それだから負けたんだ」「意氣地なし」と散々の罵倒を浴びせる

最前列 にあつて傍聽してゐた神戸の土屋保安課長は鈴木文治氏から「私の言ふ事がもし嘘だと言ふ者があら出て貰ひたい保安課長の登壇を望む」と盛に演説を求められて弱く狼狽してゐた……斯くて十時散會

檢束者十一名 錦町署は高橋三郎(二五)和田艶一郎(二六)齋藤正直(二〇)四名を突込時に捕まつて檢束、又賀川氏演説中突然大聲を揚げた廿五六歳位の男は目下取調中であるが一切口を噤んで語らない

財團 協調會